

2021年度予算・実績及び2022年度予算案説明 補足資料

2022年1月12日 実行委員会 資料3-1

1. 2021年度 SIC 予算・実績説明資料

1) 当初予算の補足説明

2020年度のコロナ禍のため繰越金が大幅に増加することになり、実行委員会で会費の減額も検討したが否決され、2021年度に知名度向上に向けた大きなイベント等を実施し繰越金の一部を消化することになった。

すなわち、当期収支に加え、繰越金を消化する予算を追加で組むことにした。具体的には次年度の繰越金(期末残高) ¥4,900,000 となることを目標として予算を組み、事業活動を行うことで総会の承認を経て運営してきた。

予算額は下記。詳細は、2021年度予算・実績説明資料を参照

予算額：繰越金（昨年度 ¥20,531,748）と 当期収入予算 ¥18,354,780

合計 ¥39,394,551 で運営。

2) 2021年度実績概要

2021年度はコロナ禍がさらに拡大して、国内は第5波に襲われた。当期収支については、当期の収入予算を消化する形でバランスの取れた活動ができたが、繰越金の削減はコロナ禍のため未達となった。

実績は、¥17,646,757。当期収支として ¥708,023 を残すことになった。その結果、繰越金は、¥21,039,771 となった。1月8日現在。最終決算確定中。

(一社)法人財務の繰越金の適正水準化に向けた2020年度の繰越金の削減策は、コロナ禍のために予定通りには行かず、主な活動は以下に示すようにオンライン中心の活動にとどまった。

コロナ禍による緊急事態宣言下で国際シンポジウムの開催を見合わせた。他の事業もオンライン中心で実施し、会場での運営は規模を縮小してハイブリッドで実施した。

・分科会の運営費	¥6500000	ほぼ予定通り
・SICフォーラム運営費	¥800,000	オンライン開催
・SIC産学交流会	¥800,000	オンライン開催
・SIC国際シンポジウム運営費	¥4,000,000	2022年度へ延期
・経営者啓発パネルディスカッション	¥3,000,000	ハイブリッド開催

*当初想定していた繰越金の適正水準へ戻すことは2022年度以降の課題となった。

2. 2022年度予算について

昨年、12月頃からコロナが終息する傾向が出ていたが、ここに来て急遽オミクロン株が広がってきており、油断できない状況にある。2022年度はSIC4年目であり中期目標を検討している、そのなかで、コロナで増加した繰越金の扱いを適切な水準に戻すことを慎重に検討している。2022年度予算は、昨年度の繰越金をうまく活用して会員企業への貢献をしつつ今後3年間の事業充実のための基盤構築の予算とした。

年度予算 ¥21,710,000 繰越金 ¥22,359,430

当期収入 ¥17,840,000 + 繰越金のうち¥3,870,000 を充当。

2022年度収入予算。

会員企業28社、2社退会された。今期4社の仲間を増やすべく努力目標を設定。今年度は当期収支としてはマイナスだが前述の繰越金額を活用して下記の事業項目について予算を重点配分しており、実行委員会メンバーのご意見とご協力をお願いしたい。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ・ SIC 活動成果発表会 | ・ 研修講座 講習会開催費 |
| ・ ケーススタディによるシステム構築講習会 | ・ S I C 産学交流会運営費 |
| ・ システム塾運営費 | ・ S I C フォーラム運営費 |
| ・ システム人交流会 | ・ S I C 国際シンポジウム運営費 |

詳細予算額は、2022年度予算(案)説明資料を参照

3. 予算必達に向けて

予算策定には法人運営の継続性と安全性の他、コロナ禍のリスク動向にも注目する必要がある。そのため、コンテンツジェンシー・プランを十分に議論することで、次の一手を用意しておき、コロナ禍の影響などの要因を加味しながら今年度末には**想定内の着地点を目指していきたい**ので実行委員会メンバーの協力をお願いしたい。

4. 参考：実行委員 KDDI 真鍋氏からのメールでの質問に対する回答

■実行予算 質問6つ

質問1 第4行目「分科会・、、、の運営費」の2つ下の行の「活動費」 270万円

この内訳が何か教えて下さい。

(補足) 端的には次の2つを知りたいです。

- ① 2021年度の活動費の結果・内訳
- ② 2022年度の活動費の内訳 (現3分科会分と新規分科会分を分けて)

回答1- ① ⇒ システムモビリティ分科会 調査費 165万(消費税込み)
同 トヨタ共同研究費 研究報告書作成費 20万
システムヘルスケア分科会 157万2500(消費税込み)

*年末ぎりぎりで発注仕様がフィックスして金額確定。

回答1- ② ⇒ スマートフードシステム分科会報告書作成謝礼の実績による。
システムモビリティ分科会等の3分科会 最終報告書 作成費 90万
今年度の活動分科会等の活動費(調査費、外部講師謝礼等) 活動費 65万

質問2 第13行目「国際シンポジウム運営費」

この内訳が何か教えて下さい。

(補足) 予算化に足るだけの粒度の内容があって予算化を提案されているのか判断つきかねます。適切なテーマが無い限り開催しないことは当然として、経済効率面からも評価した方が良くと思います。

例えば、100名参加でコスト300万円では、3万円/人のコストになってしまう。

回答 2⇒ 予算額 300万 参加者として60名を想定

会場費 100万～150万

講師謝礼 海外からの招聘 100万+国内 50万

コロナの状況次第なので、国内講師 あるいは他団体との共催も視野に入れてい

コロナ禍第6波が来た際のコンテンジェンシーを実行委員会で審議したい。

シンポジウムの狙いは、グローバル化への対応を示すこと。

実行委員会でタスコフォースチーム作り、活動することを提案したい。

質問 3 「分科会、、、活動費」「国際シンポジウム運営費」それぞれの備考欄「繰越金から充当」この「繰越金から充当」の意味を教えてください。

(補足) ある活動費が繰越金からと特定されることがあるのか俄かに理解できず、同時に、これら2つの項目に注記されている意図が理解できません。

例えば、特定会員企業から研究費に使って下さいとしてあずかったお金をある活動費に対応させ充当するという事なら分かる気がします。

回答 3⇒ 上記は、2021年度実施できなかったために、昨年の繰越分を使用することになっている。国際シンポジウム、分科会活動費、など。

質問 4 第17-18行目「広報活動のHPによる情報発信」または次行の「動画コンテンツ」この内訳が何か教えてください。

(補足) 私にはHP上にフォーラムや研修の一場面を動画で掲載頂きたいという希望あり、必要ならば予算化に向け委員の皆さんと議論できれば良いなと思っています。

回答 4 ⇒ HPによるプレスリリースによる公開情報のコンテンツ作成

動画 3～5分のSIC紹介のコンテンツ作成などを想定している。

その他、PRのやり方等は、実行委員の皆様の提案を受け入れたい。

【私の事情】 SICが開催する研修講座やフォーラムの案内を受けると、私から社内関係部門に展開します。

しかし、それに当たり、「システムイノベーションセンターとは、、、」、「AI講座ではこんな先生がこういう話しを、、、」とゼロから説明しなければなりません。毎回、それを繰り返します。過去開催されたもの、あるいは、開催前の講義の狙いが、1件3～5分間程度で視聴できるようになっていれば、その動画を見ることにより、内容・レベルを直感してもらいやすくなります。

(ここでは研修を念頭に意見しています。SIC及びその理念を動画にすることは希望していません。)これは私の会社固有の事情かもしれないので、他の委員の方々のご意見を伺いたいです。

ただ、動画を載せるに当たっての「著作権」云々の制約について、不勉強でよく分からないままコメントしています。

例えば、青山先生が講義をされたとして、その冒頭の3分間をHPに載せるために満たすべき条件が何かを理解していない中での勝手な記述です。この条件・制約は説明して頂けると助かります。

⇒ チラシで出しているの。実行委員でどなたか担当？ 御指名？

事前の確認をする KDDI &KKE

質問5 第21行目 「SIC活動のシステム化」のうち「会計ソフトの導入」

これは、2021年度末時点で、導入済みでしょうか。それとも未導入でしょうか。

(補足) 支出科目欄の記述は2021年度分だけなので、読み取れず質問しています。会計は、必ずしも事務局の得意分野ではなさそうに感じるので、事故を未然に抑止するためにも導入済みかどうか確認しておきたいです。

2021年度・2022年度それぞれの内訳を示して頂くことでも良いです(むしろ、その方が好ましい)。

回答5 ⇒ 会計ソフトは検討はしているが、会計の仕組みが現状それほど複雑ではなく、今後SICの事業内容、規模が複雑になってきた際の事前調査段階。なので予算の設定まで落とし込めていない。誤解を避けるために削除する。
業務改善のツールとしてTEAMS、ZOOM、MIRO、マジックコネクト、ADOBE等を活用している

質問6 第1-3行目 各種会議体の開催費

約8倍に増加しています。算出の前提(①単価、②頻度、③形式)を教えてください。

(補足) うち形式について、私は、ハイブリッド形式を継続することを希望します。

これも会員企業各社の声を聞いた上で、確定していくのが良いと思います。

回答5 ⇒ 昨年はほとんどがオンラインで開催したために費用が発生しなかった。

今年は、オンラインだけでなくハイブリッドで開催する可能性が高いので主に会場費を予算計上している。

■ コメント

第7行目 「SIC活動成果発表会」

これは会員企業向けに開催される分の予算計上と読みました。

それに加え、対外的に活動成果を発表する会を開催してはどうかと思います。例えば、現3分科会が一定の成果を出した後、主査の先生他から、提言の要諦や検討外とした関連課題等を全体俯瞰しながら解説して頂くと、会員企業外の皆さんに(例、経営者研修講座に集まって下さった企業の方々に)対し、産業社会課題とSICの活動の具体的なつながりを理解して頂く機会になると思います。

コメント回答

⇒ 良いコメント・提案だと思います。4年目に今までの活動成果をSIC外部の方々に報告することは、今後関連する団体とのアライアンス先と連携してSICの活動に協力いただく機会ですね。また新規会員の入会等のきっかけになると思われます。会員だけでなく非会員の参画も検討予定します。

この件は、副センター長、実行委員長に相談して詳細を検討します。

* 社外も受け入れる。キーノートスピーチとして野口由紀夫氏等有名人を招聘する。

⇒ その他、コメント2(?)はありますか？

以上